

III 社内外の評価及びご意見

1. 第14回 九州電力環境顧問会

2014年12月8日に「第14回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと
浅野 直人
福岡大学法科大学院特任教授、
中央環境審議会委員



おおつか まさお
大塚 政雄
環境省環境カウンセラー
(市民部門)



かど ひさよし
門 久義
鹿児島大学名誉教授



つつい やすひこ
筒井 泰彦
エッセイスト



つる た さとし
鶴田 暁
九州地域環境・
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こ
詠田 トキ子
NPO法人
みやざきエコの会理事長



にしだ しんいち
西田 進一
西田鉄工株式会社
相談役



のむら みきお
野村 美紀生
株式会社TNC放送会館
代表取締役社長



はやせ たかし
早瀬 隆司
長崎大学大学院 水産・環境
科学総合研究科 研究科長



会議風景

(注) 詠田委員は都合により欠席されたため、別途ご意見をいただきました(顔写真は第13回(2013年11月)のものを使用)。ご所属は2014年12月時点で記載しています。
なお、筒井委員、西田委員、野村委員は、2015年3月31日をもって九州電力環境顧問会委員をご退任されています。

[ご意見の概要と対応方針]

主な意見	今後の対応方針
<p>【原子力発電への理解活動】</p> <p>○原子力発電所の停止により、火力発電が定期補修もできずに稼働を続けている中、何とか電気を供給できていることを率直に伝えていくべきではないか。</p> <p>○原子力発電所の停止に伴う火力発電の増加により、CO₂排出量の増加や地球環境問題に影響を与えていることを積極的に情報発信するとともに、日本には資源や低廉なエネルギーが少ないことなどを踏まえ、原子力発電の必要性を訴えていくことが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 火力・水力発電所における補修停止時期の繰り延べ・調整や、週末・休日等を利用した臨時作業の実施によるトラブル停止の低減など、厳しい状況の中、電力の安定供給に向けて九電グループ一体となって取り組んでいることを、お客さまにご理解いただけるよう環境アクションレポートに記載しています (P12)。 2012年度以降、5,000万トンを超えるCO₂の排出が継続していますが、これは、原子力発電所の停止に伴う火力発電電力量の大幅な増加によるものであり、CO₂排出量の大幅な削減には、原子力発電所の早期再稼働が必要不可欠である旨を環境アクションレポートにも記載しています (P12)。また、原子力発電は、エネルギーセキュリティの面からも必要性が高いことを、引き続き地域での環境活動の機会等を捉えて訴えていきます。

用語集をご覧ください

>>地球環境問題

>>エネルギーセキュリティ

第14回九州電力環境顧問会	47
環境アクションレポートの読者アンケート	49
エコ・マザー活動における保護者アンケート	50
環境に関するお問い合わせ等への対応	50
社外評価	50

社外ステークホルダーのご意見

社外からの意見を積極的に
取り入れることは重要である。

▶ P 47 第14回九州電力環境顧問会

主な意見	今後の対応方針
<p>【CO₂排出抑制への取組み】</p> <p>○現在、国ではCO₂排出抑制に資する「省エネ」に関する議論が行われている。省エネの取組みは家庭部門のみで推進することは困難であり、商品を販売する企業の役割が重要であるため、電力会社としても積極的にサポートしてもらいたい。</p> <p>○水素の活用や石炭ガス化発電など、技術は進歩しており、今後も進歩が続くと考える。九州電力としても、エネルギーや資源について多方面から検討した上で、環境に関する新しいビジネスを創出すれば、評価されるのではないかと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各営業所では、ホームアドバイザーによる講座などを通じて、家庭部門での省エネを推進しており、環境アクションレポートでは、ホームアドバイザーの声として紹介しています（P18）。また、ホームページでも、家庭部門における省エネの取組みを紹介しています。 燃料電池の研究・開発や、電力大での石炭ガス化発電の実証試験への参加など、これまでも技術開発に努めてきました。今後もCO₂排出抑制や省エネ技術の向上に繋がる取組みを検討・実施していきます。
<p>【地熱発電への理解活動について】</p> <p>○地熱発電への理解については、これまで同様に地元の方々に対して、粘り強く丁寧に説明することが必要と考える。また、単に安全性の説明のみならず、「地域振興」と結びつけて話をするのが効果的ではないかと考える。</p> <p>○地熱発電の温泉への影響については、先入観を無くすためにも、問題は発生していないことをデータや実績を踏まえて説明していくことが必要と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地熱発電所では、地域に提供する温泉水の造成や園芸ハウス熱源として、余剰蒸気を活用しており、環境アクションレポートでも紹介しています（P3）。地域の皆さまへの理解活動にあたっては、地熱発電が産業・生活資源、観光資源であるということをご理解いただけるように努めていきます。 発電設備の安全性はもとより、地熱発電の開発が温泉へ影響を及ぼすという先入観を取り除くためにも、そのような事例は発生していないという事実をしっかりと説明していきます。
<p>【地域と連携した環境保全活動について】</p> <p>○環境保全活動については、他社との「差別化」ではなく、「連携」を図って取り組むべきであり、コーディネーターとして他社や自治体へ協力することが大事である。九州電力の個性を發揮できる取組内容であれば、一般の方々の関心も高くなると考える。</p> <p>○坊ガツル湿原における野焼き活動は、予め実施日を決めてイベント化してはどうか。広報に力を入れるとともに、旅行者との連携を図るなどの対応により、集客も見込めると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 坊ガツル湿原一帯の取組みは、従来から地域の方々と協働で取り組んでいます（P4）。今後も多様な協働先との連携を深めるとともに、九電らしさが伝わる取組内容を検討・実施していきます。 美しい自然やその保護活動をより多くの方に知っていただくため、観光業界など地元関係先と連携し、事前の実施日を広く周知し、一般の方が参加・見学しやすい環境を整えていきます。

中央給電指令所の見学会を開催しました。

2014年度は、会議と併せて、当社の事業活動へのご理解を深めていただくため、中央給電指令所をご視察いただき、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの導入量の増加が電力システムに及ぼす影響などについてご説明しました。



中央給電指令所見学会の様子

用語集をご覧ください

- >>ステークホルダー
- >>再生可能エネルギー
- >>ホームアドバイザー
- >>系統